

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.17 2007年9月30日号

編集:[editor@cna.jp](mailto:editor@cna.jp) 広告:[pr@cna.jp](mailto:pr@cna.jp) 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

## 業界 news-国内

ae コミュニケーションズ、768kbps から可能な  
アエスラ製 HD 対応テレビ会議システムを日本  
国内販売開始



### aethra Vega X7(アエスラ・ベガ・エクス・セブン)

ae コミュニケーションズ株式会社(東京都千代田区)は、HD対応のテレビ会議システム「aethra Vega X7(アエスラ・ベガ・エクス・セブン)」の受注を9月10日から、出荷は9月26日から開始したと発表。

ae コミュニケーションズは、既に Vega X シリーズとして、SD対応のテレビ会議システム「Vega X3」と「Vega X5」を販売しているが、今回発表になった Vega X7 は、HD 対応で Vega X シリーズの最上位機種になる。

「アエスラ製のテレビ会議システムとしては、最上位機種となる Vega X7 により、従来の SD 対応だったテレビ会議システムの映像音声品質では満足いただけなかったハイエンド製品を求めらるお客様に提供したい。主に設計、製造、開発といった現場や遠隔教育や医療など、高精細な映像が求められる用途に HD システムは力を発揮すると考えている。」

(ae コミュニケーションズ)

Vega X7 は、IP(H.323 と SIP)、ISDN、専用線に対応する。

専用線については、年内発売のオプションの予定。

通信速度は、IP については、768kbps から 4Mbps。ISDN については、BRI(768kbps)と PRI(1.5Mbps)。

30fps の H.264/HD 解像度(1280x720)をサポート。最大 9 地点まで同時接続が可能な内蔵 MCU(オプション)の提供。

「現在市販されている他社の HD 解像度(1280x720)のテレビ会議システムでは、最低 1Mbps の帯域を要求されるのが標準的だが、Vega X7 は、それよりも少ない 768kbps から HD 解像度が可能だ。そのため、企業ネットワークへの負担もより少なくてすむ。既存の SD システムとの接続も問題ない。」(ae コミュニケーションズ)

9地点までの内蔵 MCU は、SD 接続になるという。Vega X7でのHD接続は、1対1接続のみ。HDでの多地点接続は、アエスラから販売している MCU 装置「aethraMCU」を購入する形になる。

音声については、MPEG4 AAC-LD、G.722.1 Annex C に対応。「MPEG4 AAC-LD、G.722.1 Annex C は標準的な 14khz 音声コーデックのため、それらに対応した他社製とのテレビ会議接続でも CD 並のクリアな音声が可能だ。」(ae コミュニケーションズ)

メーカー希望小売価格は、1,943,000 円(税別)。内蔵 MCU オプションが、624,000 円(税別)となる。

ae コミュニケーションズは、テレビ会議システム販売会社 VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)の子会社で、イタリアのテレビ会議メーカー アエスラ社製の専門販売会社。アエスラ製品の日本国内普及を図る目的で 2006 年アエスラ社と共同で設立された。

(ae コミュニケーションズ設立関連:定期レポート Vol.8 No.25 2006年9月30日号)

## ギンガネット、海外使用と内蔵MCU対応のIP テレビ電話を発売、Web閲覧、ストリーミング にも対応



### WarpGate601(ワープゲイト 601)

株式会社ギンガネット(大阪府大阪市)は、IP テレビ電話「WarpGate601(ワープゲイト 601)」を9月中旬より発売。

WarpGate601 は、対応テレビ信号(NTSC と PAL)と電源(AC100～AC240)に対応し海外での使用も可能な機種。また、多地点テレビ電話通話が可能な内蔵MCU機能(オプション)にも対応した。これら2つの機能は、ワープゲイトシリーズの機種としては初めての対応になるという。

多地点 MCU については、3地点までの多地点接続に対応するが、4地点以上であればギンガネットのサービスの利用を薦める。「4地点以上の多地点テレビ会議は、ギンガネットが提供する多地点テレビ会議サービス”ミーティングネット”を利用することで、高価なMCUを購入することなく、利用時間分の費用を払うだけで済むので経済的。」(ギンガネット)

WarpGate601 の性能の面については、「低価格・安定性はそのままに大幅な高品質化・小型化を図りテレビ電話の通信クオリティは、従来機の約3倍(当社比)に向上している。」と同社は説明する。

通信帯域は 64kbps から 1,920kbps をサポート。H.323 と SIP(別途設定要)のプロトコル。画像符号化方式は、H.261、H.263、H.263+、H.264。画像解像度は、CIF、QCIF、4CIF、

Full-D1、Half-D1。フレーム数は、最大 30fps。音声符号化は、G.711、G.722、G.728。エコーキャンセラ機能(7Khz)搭載。14khz の広帯域音声に対応可能。

符号化は、H.235 に対応している。遠隔カメラコントロールは、ギンガネット独自方式。映像音声の入出力(RCA 端子)、専用ヘッドセット用ピンジャック。

QoSについては、自動レート転送、パケット補正を提供。ネットワーク接続関係では、NAT 変換、PPPoE、UPnP に対応している。

カメラ部については、ガラスレンズ CMOS カメラ。手動フォーカス、デジタル2倍ズーム。相手カメラ制御、相手先音声調整、増設カメラ制御、センサーダイヤル機能など提供。



### 16 分割画面

その他では、ライブ配信・受信に活用できるMPEG2のストリーミング(オプション)、ホームページ閲覧用のブラウザにも対応している。そのため WarpGate601 では、PCがなくてもホームページを閲覧しながらテレビ会議もできるという。テレビ電話、Web、ストリーミングをシームレスに組み合わせ活用もできそう。また、海外対応のため日本語、英語、中国語、台湾語をサポート。

価格は、228,000 円(税別)。「大量生産、大量販売によ

り、従来 70～150 万円クラスのテレビ会議システムと同程度の性能を持ちながら、価格は 20 万円台と圧倒的な低価格を実現した。」(ギンガネット)

土日を含む 24 時間の電話サポートを提供。故障時の代替機の貸し出しにも対応する。

### NEC 情報システムズ、会議前の準備・会議後の文書管理、会議中の資料操作まで会議をトータルにサポートするシステムを提供、テレビ会議や電話会議システムと共存した運用で、より高効率・高品質の会議を実現

株式会社 NEC 情報システムズ(東京都港区)は、会議の完全なペーパーレス化を実現し、準備から会議当日、そして会議後の資料管理までトータルに会議を支援するシステム「ConforMeeting/e(コンフォーミーティング・イー)」を提供している。ConforMeeting/e は、社内ネットワーク上で動作するクライアントサーバーシステム。サーバー側とクライアント側に必要なソフトウェアをインストールして動作する。

ConforMeeting/e は、会議に関わる資料の効率的な管理を行い情報の漏洩を防ぐとともに、当日の会議の効率的な運営を図ることを目的に開発されたシステム。

そのために、会議の準備の段階から会議中、そして会議後の管理までの一連のプロセスの中で、資料を電子ファイル化し一元的な管理を行う機能と、当日の会議運営を効率よく行うための機能の2つの機能を提供している。

「紙媒体での会議資料の保管は分散化しやすく、漏洩の危険性が常に存在している。そういった中で情報漏洩を防ぐには、会議の準備から会議中、そして会議後の資料のペーパーレス化とその情報の一元管理がとても大切だと考えている。その上、会議を行っている際の効率的な運用への要望も高い。そういった観点から、ConforMeeting/e を開発した。」(NEC 情報システムズ)

「当社内では、この ConforMeeting/e を役員全員が参加する週一回の経営会議ですでに1年以上にわたり活用している。ペーパーレス化や資料の一元管理などを行うことで紙

資料のファイリングの手間も省ける。会議中に即座に過去の資料への参照も簡単に行えることで、議論がぶれず、クリエイティブな議論とそれに伴う意志決定が的確に無駄なく行われるようになってきた。」(NEC 情報システムズ)

資料管理の面については、ConforMeeting/e では、資料が電子ファイル化され、「個人のキャビネット」で保存・管理されることになる。つまり、その電子ファイルを自分のPCへ保存したりといった資料の持ち出しが基本的には会議参加者の意志では出来ない仕組みになっている。

この ConforMeeting/e のシステムは、クライアントの端末とサーバーが連携して動作するが、基本的にクライアントもサーバーも同じ会議室の中に設置して使用する。それも情報漏洩のリスクを軽減するためでもある。クライアントは、タッチペン入力ができる17インチサイズのPCを標準として提供している。

会議参加者は、ユーザIDやパスワード方式、あるいは、社員証と連動したカードでの認証をして ConforMeeting/e にログインし、「会議室」に入室する。そこで初めてキャビネットにアクセスができ資料を参照できることになる。

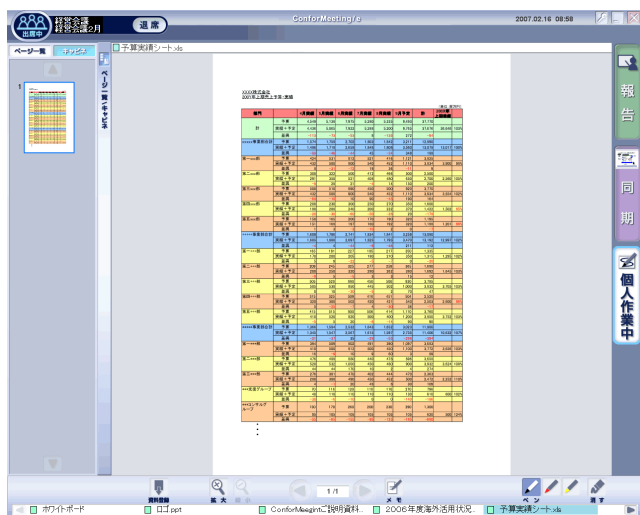


### ConforMeeting/e 資料共有時の画面 - Microsoft PowerPoint 資料共有

そして、必要な資料を開けることで、17インチのディスプレイに資料が表示される。画面には、資料を中心に囲んで、その周り操作ボタンなどが配列されているが、シン

ブルな操作が行えることを想定してボタン数や操作ステップを極力減らしている。また、配列されているメニューは、操作のために動かすタッチペンの動線をできるだけ短くするために比較的多い右利き向けを想定している。

「Windows 系のアプリケーションの操作画面は、OS のメニューに沿って画面左上に“ファイル”や“編集”などのメニューがあるが、これに従うとペンを持つ手を画面左上まで持っていく必要がある。それに対して、ConforMeeting/e の操作メニューは、右下にはほぼ集中しており、手の動線を最短にできる。手への負担も考えたユーザーインターフェイス設計を心がけた。」(NEC 情報システムズ)



**ConforMeeting/e 資料共有時の画面 - Microsoft Excel 資料共有、左側にサムネイルされた資料が表示、資料が複数枚あるとそれら 1 枚 1 枚の資料が縦列に表示される。**

中心に表示されている資料の左側には、その資料に入っているそれぞれのページが画面左手縦列にサムネイル表示され、ワンクリックで選択されたそのページを開くことができる。

資料下側には、他のアジェンダの資料が一覧表示され、必要に応じて、ファイルを呼出し、画面上に表示させることもできる。そのため、今使用している資料の他のページの参照だけではなく、他のアジェンダの資料への参照も簡単なペンタッチ操作で行える。

「電子化された資料を会議中にストレスなく簡単に紙資料

と同等に扱えるだけでなく、その上会議中の操作に惑わされることなく、人が会議に集中できることがもっとも大切だからだ。つまり、人が会議中にどういった行動を行うか(たとえば、配布された資料を個人のペースで先読みする動作や、疑問点や強調点を資料へメモ書きしたりなど)をストレスなく簡単に行えるようにユーザーインターフェイスと操作性において工夫した。」(NEC 情報システムズ)

現在開いている資料については、紙資料のページめくりのようにページめくりが行えるとともに、その資料への書き込み、メモ書きなども行える。手書きメモは、Microsoft Powerpoint や Word ファイルにそのまま描き込める。「市販されている Web 会議システムであれば、共有された資料は jpeg ファイルで保存されるが、ConforMeeting/e では、共有された PowerPoint に作図イメージ(オブジェクト)として埋め込まれ保存される。」(NEC 情報システムズ)

描き込みで使用できる色は、3色(黒、赤、黄)に限定した。「沢山色を選択できるのも便利だが、使用パターン的には、黒、赤、黄があれば実際上ほとんどの場合十分ではないかと考えた。」(NEC 情報システムズ)

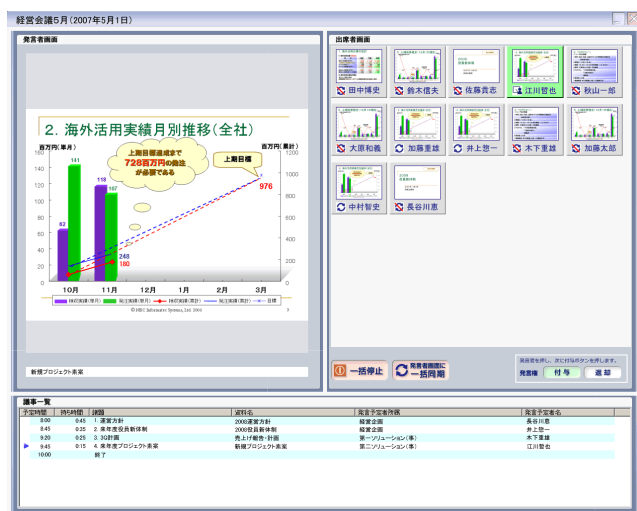
また、表示されている資料の拡大縮小の操作が行える。そうすることで細かい文字数字などもよくわかるように工夫している。「ディスプレイのサイズは、A4 サイズ資料を横にして閲覧する際に文字が問題なく見えることを考えて17インチを薦めているが、資料の拡大縮小機能を組み合わせることで、細かいExcelの数値データなど通常のWeb会議システム等ではとても見にくいものでも、ConforMeeting/e では視認性が極めて高く快適。」(NEC 情報システムズ)

発言者が資料を参加者と共有する場合は、画面右側にある共有ボタンを押すことで会議参加者全員の画面に表示される。一度資料が共有されると、資料が同期して進んでいくが、その間、発言者が資料に書き込みをすると、その書き込みされたものは、他の参加者の画面にも同じく表示される。また、個別のメモ書きなども画面上に書き込みもできる。

そして、会議終了後は、その書き込みをされたものと、

元資料とを合わせて、サーバー上の「個人別のキャビネット」に保存する。書き込みされたものなどは元資料のフォーマットで行えるため、資料の再利用する際に便利だ。

「今回の会議の際には、ここから前回の資料を参照することで継続した議論などに威力を発揮する。会議が終われば、管理用コンソールから一斉シャットダウンを行い電源も落とせるので、事務局サイドの作業は軽減される。20人も出るような大きな会議の場合、この会議後の後始末の時間は無視できないオーバーヘッドである。」(NEC 情報システムズ)



#### 管理者コンソール画面 - 会議進行中

会議の前・直後などの電源の ON/OFF、クライアントソフトウェアの立ち上げ、共有資料の同期(参加者全てが同じ画面を見るようにすること)などは管理者画面をつかって一斉に行うことが可能。クライアントでは資料はキャッシュに蓄積されており、会議終了後は、一切資料は残らないので、別の会議参加者が資料を読むようなことは全くできない。

ConforMeeting/e は、基本的には閉じた会議室内で稼働させるシステムだが、NEC 情報システムズの導入実績の中では、テレビ会議や電話会議と共存させて ConforMeeting/e が活用されている例もあるという。「あるソフトウェアハウスでは、VPN(仮想プライベートネットワーク)を使い、遠隔地間との CAD データの共有作業で ConforMeeting/e が使われているが、ConforMeeting/e 上で共有されるデータは、swf ファイル(Adobe Flash ファイル)に変換されるためネットワークへ

の負荷はかなり抑制できる。」(NEC 情報システムズ)

ConforMeeting/e は、文書コンテンツ管理システム「PROCENTER(プロセンター、NEC 情報システムズ提供)」との連携の他、社内の認証システムとの連携、セキュリティ強化やメンテナンスなどのオーバーヘッドの最小化を行うためのシンクライアントにも対応している。「お客様の利用環境やニーズに対応し、各種システムと連携しながら、今後もセキュリティや操作性等において満足していただけるシステムとして提供していきたいと思う。」(NEC 情報システムズ)

ConforMeeting/e は、ソフトウェアだけでなく、タブレットやサーバ・クライアント PC まで一括して SI 提供ができる。10 ライセンス同時接続(ハードウェア端末を含まない)で 350 万円から。

#### 業界 news-海外

#### ラドビジョン、H.460 準拠のビデオ会議ファイアウォール・NAT トラバーサルソリューションの提供開始

イスラエルのビデオ会議用インフラ製品メーカー ラドビジョン社の発表によると、8 月上旬に、「PathFinder バージョン 5.5」の提供を開始した。

PathFinderは、H.460 に対応したエンドツーエンドのファイアウォール・NATトラバーサルソリューション。H.460 に対応したビデオ会議端末であれば PathFinder を経由することで問題なくファイアウォールを通過させることができる。H.460 に対応していない場合は、フリーの「SCOPIA PathFinder クライアントソフトウェア」をインストールすることで PathFinder を経由したファイアウォール通過通信が可能。通信は全て AES 暗号化に対応し、ダイヤリングについては、URI もサポート。URI は、通話開始時に、電子メール、または URL 形式のアドレス指定にて相手へのダイヤルを可能とするもの。

ファイアウォール・NAT トラバーサルは、企業のイントラネットから外部のインターネットの接点に設置されたファイアウォール自体に特別な設定を施さずに、ビデオ会議の

パケットデータを透過的に通過させるとともに、イントラネット上のプライベートIPアドレスからパブリックインターネットのグローバルIPアドレス間のアドレス変換を解決する仕組み。この仕組みがないとイントラネットとインターネット間のファイアウォールや NAT を通してのIPテレビ会議通信はできない。ITU-T にて H.460 として標準化されている。

日本国内では、ラドビジョンジャパン(東京都新宿区)が窓口。

### LifeSize 社、インド、中国での販売チャネル強化

米 HD テレビ会議システムメーカー LifeSize Communications 社が、インド及び中国での販売チャネルパートナーの強化を行った。

まずインドでは、Actis Technologies 社、Enkay Technologies 社、SEC Communications 社とディストリビューション契約をそれぞれと提携した。「LifeSize 社にとってインドは重要な市場だ。今後も長期的な観点でチャネルパートナーとの関係を強化していき、インド市場での地盤を固めたい。」(LifeSize インド社)

上記3社に加え、既存のパートナーである PLUS Business Machines 社とともに、市場開拓を強化する考え。

LifeSize 社は、2006 年 8 月バンガロールに、現地のエンジニアを採用してソフトウェア開発のための開発センターを開設している。今後もエンジニアの採用を増やしていく予定。

中国では、Shenzhen Hivision Video Communication Tech 社との現在のリセラー販売パートナー関係を強化。今後は、LifeSize 社の製品全ての販売とサポートを行うことになる。同社は、2005 年に深センに設立。中国国内では、中国政府や通信事業者などに強い販売チャネルを持つ。中国国内約 20 省にて現在展開している。自社ブランドの多地点接続装置(Aloha シリーズ)や TV WALL システム、レコーディングシステム、マネージメントソフトウェアツールなど開発している。

日本の窓口は、LifeSize Japan(東京都新宿区)。販売パートナーは、株式会社日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)。(関連記事:Vol.9 No.13 2007 年 6 月 30 日号)

### Emblaze-VCON 社、アプライアンス型 MCU、PC 向けテレビ会議ソフトウェアを発表

イスラエルのテレビ会議メーカー Emblaze-VCON 社 (Zone-IP グループ) が、アプライアンス型の多地点接続装置(MCU)「VCBpro」と、PCクライアント用のテレビ会議ソフトウェア「vPoint Enterprise(ブイポイント・エンタープライズ)」を発表した。出荷は第三四半期(2007 年 10 月-12 月期)。



#### VCBpro

VCBpro については、H.323、SIP、H.320(ISDN)に対応。12ポート、24ポート、36ポートと3モデルを提供しゲートキーパー、ストリーミング、データ共有、Web マネージメント機能を内蔵。

1ポートあたり、2Mbps まで(H.261)、あるいは、4Mbps まで(H.263/H.264)の通信帯域をサポートし、解像度は CIF、4CIF、720p(HD)に対応。一般的な音声切り替え(VS)に加え、多画面分割(CP)では、最大 25 人まで表示ができる。プレゼンターモードやビデオリターンモードなど機能などにも対応。

映像符号化は、H.261、H.263、H.263+、H.263++、H.264、音声符号化は、G.711、G.723.1、G.728、G.729、G.722、G.722.1 Annex C、AAC-LD に準拠。

データ共有機能は、ITU-T 標準の H.239(デュアルモード)をサポートし他メーカー機種で H.239 対応とのデータ共有を可能としている。

vPoint Enterprise は、パソコンベースのテレビ会議システムソフトウェア。Microsoft Windows Vista 対応。専用のソフトウェアをパソコンにインストールすることでテレビ会議

が行えるもの。

映像の解像度は 4CIF、音声は Siren 14khz (G.722.1 Annex C) をサポート。データ共有 (H.239) も行える。

## 米 Vello、Compunetix の多地点音声会議システムを導入



### CONTEX Summit

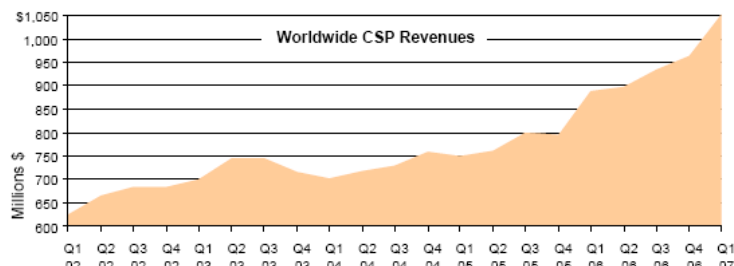
音声会議サービスを提供する米 Vello 社が、会議システム向け多地点接続装置などを開発する米 Compunetix 社の多地点音声会議システム「CONTEX Summit(コンテックス・サミット)」を導入したと発表。CONTEX Summit は、最大 9600 ポートまで対応したキャリア向けシステム。

Vello 社は、電話会議サービスを既存サービスよりも簡便に提供する目的でベンチャーキャピタルなどから出資を受け設立されたベンチャー企業。ダイヤルイン番号や PIN 番号の入力の煩雑などを解消し、必要な時にすぐどこからでも電話会議を始めることができるサービスなどを同社では考えている。

Vello 社によると、CONTEX Summit がそれを可能とすると評価し今回の導入を決定したという。

## 市場動向

### Wainhouse Research 調査報告：ワールドワイド・コラボレーションサービス市場 2007 年第一四半期 10 億 USD を達成



### Wainhouse ワールドワイド・CSP 売上

米の会議システム専門調査会社 Wainhouse Research 社(ウェインハウス・リサーチ)が 7 月 21 日に同社のプレスリリースとして発表した、ワールドワイド・コラボレーションサービス市場の統計によると、市場規模は、2007 年第一四半期(1 月-3 月期)には、10 億 USD(約 1147 億円)を達成した。一四半期としては最高の記録となる。

コラボレーションサービス市場とは、電話会議サービス、Web 会議 ASP サービス、テレビ会議多地点接続サービスをカバーし、統計数値には、通信事業者系では AT&T、ベライゾンビジネス、プリティッシュ・テレコム、WebEx、マイクロソフト、ジェネシス・カンファレンシング、プレミア グローバル サービス、インターコール、アルカディンなどが含まれている。これらの事業者を CSP(Conferencing Service Provider、会議サービス提供事業者)と呼ぶ。

2006 年第一四半期に比べ、2007 年第一四半期は下記の特徴があったと報告している。(1)電話会議サービスにおいてサービス提供総分数(CMV: Conferencing Minutes Volume)が 27%増加。(2)電話会議サービスにおいて、予約なしのサービス(reservation-less operator unattended)の 1 分あたりの利用料金が 7%下落した。(3)イベントあるいは、オペレータ対応電話会議サービス(operator-attended)の全体の売上が 19%増。(4)Web 会議 ASP サービスの全体の売上が 20%増。

今回の結果について Wainhouse Research は以下のよう

にコメントする。「コラボレーションサービスは価格的に手頃になり、より多くの企業などに使われるようになった。その背景のひとつに、過去4年間の価格推移をみても、電話会議で非常に需要が高い予約なしサービスの料金は、この4年間で42%下落したことがあげられる。」



## セミナー・展示会情報

### エクセレント・コミュニケーション・サミット 2007

日時:10月3日 13:00 ~ (受付開始 12:30 ~)

会場:大塚商会本社ビル

主催:株式会社大塚商会

【ゴールドスポンサー】日本電気株式会社、ポリコムジャパン株式会社、マイクロソフト株式会社など。

【シルバースポンサー】日本タンバーク株式会社など。

詳細・申込:

<http://it.otsuka-bs.co.jp/otsuka/event/ecs2007/>

### CEATEC JAPAN 2007

日時:10月2日-6日

会場:東京ビッグサイト

主催:CEATEC JAPAN 実施協議会、社団法人電子情報技術産業協会、情報通信ネットワーク産業協会、社団法人コンピュータソフトウェア協会

\*コンファレンス(通信ネットワークトラック)にて10月5日、HATS 推進協議会(14:00~15:00)、IMTC(16:00~17:00)が講演。

詳細・申込:<http://www.ceatec.com/>

### Web 会議 画期的活用術ご紹介セミナー

Web 会議はオフィスで本当に役に立つ!?

賢い企業はこう使う!!

日時:10月4日 15:00 - 17:00

会場:キャノンソフト情報システム 大阪本社

主催:キャノンソフト情報システム株式会社

詳細・申込:

<http://www.cjs.co.jp/seminar/detail.cfm?no=988>

### ビジュアル・コミュニケーション 2007

日時:10月24日-26日 10:00-17:30

場所:東京ビッグサイト(東京・有明)

主催:日経BP社

\*テレビ会議、Web 会議システム専門の展示会&セミナー。他に、IP コミュニケーション & モバイル 2007、SecuritySolution 2007、eドキュメント JAPAN 2007、Biz Innovation 2007 も同時開催。

詳細:<http://itpro.nikkeibp.co.jp/ev/vc07/index.html>

## 編集後記

今号もお読みいただきまして有り難うございます。

セミナー・展示会情報のコーナーでも紹介いたしました。日経BP社主催「ビジュアル・コミュニケーション 2007」(10月24日-26日東京ビッグサイト)が開催されます。会議システムメーカーや販売会社など多数出展します。

3日間セミナーも毎日開催されますが、ユーザ発表、会議システム製品、利用者からの視点による現状と展望、リアル会議 VS オンライン会議比較など興味深い講演が多数予定されています。

その中で、CNA レポート・ジャパンの橋本は、24日、26日と2回枠で講演させて頂くことになりました。内容的には、テレビ会議、Web 会議チュートリアルと題して、会議システムの基礎的知識と業界の動向、利用トレンドについて2回にわけて詳しくご紹介させて頂く予定です。宜しければご参加いただければ幸いです。

今後とも宜しくお願い致します。

橋本啓介